

【フィーロンティーロ貴族編前編】

▼爵位の付け方

王様が『別の世界の神様』で長寿だった為、この地を去るまでずっと子を成せずに、何百年、何千年と国を統治していた。その為、如何に王に貢献した一族か、というので、爵位が決まっている。(王様に貢献してきた貴族に去る前に土地分け与えた＝領地を納めている範囲、もしくは小さくても栄えてる領地が多い＝爵位が高い…というのが法則)また現在は王はいないが、その爵位は引き継がれている。実質その領地においては大人り小なり、王のようなポジション。

↑上 ↓下

【公爵】ゲヌイン家/アイアズマ家/プルモー家/ウェルテクス家/ループス家

【侯爵】トニトウルス家

【伯爵】アステロイデア家/サブルム家

【子爵】

【男爵】ニクス家

【準男爵】トリプディオ一家

【土爵】

単品っ子の爵メモ

帝(男爵)/初陽(子爵)/静夜(子爵)

▼ウェルテクス家(vertex)

飛行タイプの半分程を統べる一族。公爵家。風を読み、高い山の領地の、一番上に構えた城に住んでいる。美を愛し、平和を愛する比較的穏やかな性格のものが多い一族だが、ウェルテクス家のトップを決めるのは選挙制となっており、数年に一度、統治する人を変える催しがある際は、多少手段を選ばない所も見える。

▼トリプディオ一家(tripudiō)

王族直属の踊り子だった一族。小さな領地だが、今も祭りの時となると踊りの出し物をする。完全実力主義なので、踊りの美しさや巧さで次の領主が決まる。

分家は優秀な場合、本家に嫁いで領地を管轄する。

▼ニクス家(nix)家

氷の地の新しめの貴族ではあるが、最近力を付けてきた所。

男爵家。そんなに多くの土地を統べている訳ではないが、持ち前のカリスマ性で統率力は高い。

女性が多い傾向なので、女性が家を継ぐのも普通の事となっているが、

当主候補は周りに舐められないように男装する事が定番となっている

▼ループス家(rupes)

元々は王に忠誠を尽くし、剣となり盾となって生きてきた武闘派の貴族。

公爵家。アイアズマ家とは互いに王を守ってきた一族なので、

交友度が高い。好戦的な者と礼儀正しい者との差が大きい。

▼トニトウルス家(tonitrus)

手先が器用なので、王の発案物を作っていた一族。侯爵家。そこまで普及されてない機械工学類を扱う事を得意とする為、貴族相手の商売をしてる事が多い。

一般向けに持ち運び電話(所謂スマホ)を作ったが、いまいち普及率が悪い事が悩み。

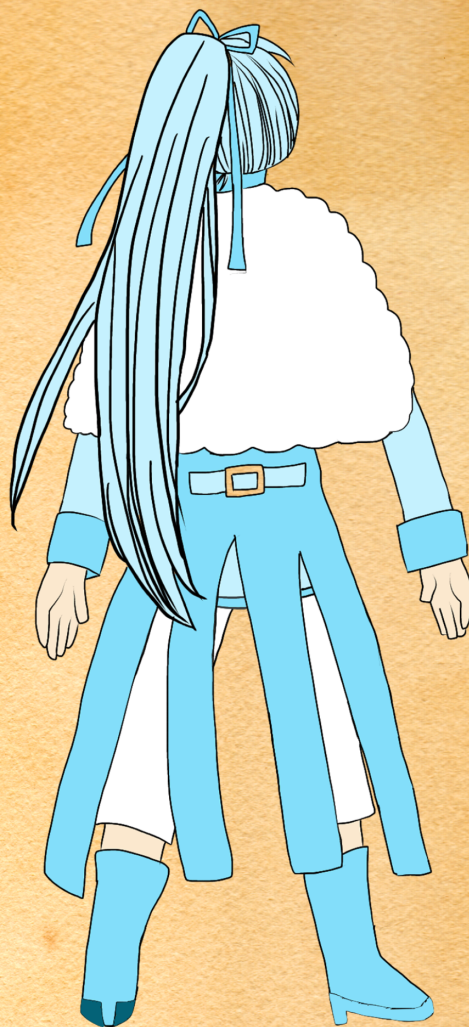
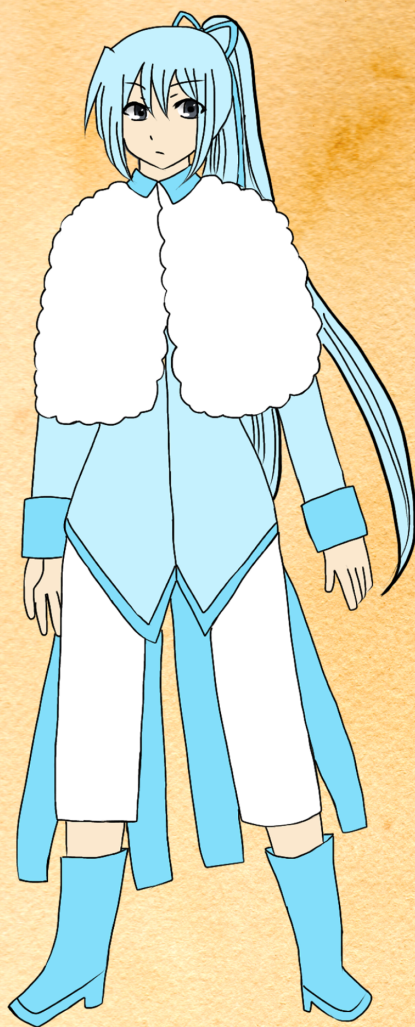
▼サブルム家(sabulum)

元々は草タイプの貴族だったが、王が去った際に隣の地面の領地を取り込んだ一族。

伯爵家。昔から悪巧みに長け、人を秘密裏に殺め貶める。それは身内に対してもそうで、

出る杭は打たれるかの如く密かに抹殺して歩く。今は弱小14歳のハーロルトが治めている。

(そこに到るまでの話はこちら基本的に領地の周囲は砂嵐が吹いており、中々侵入がしづらい場所である



アラン

Alain

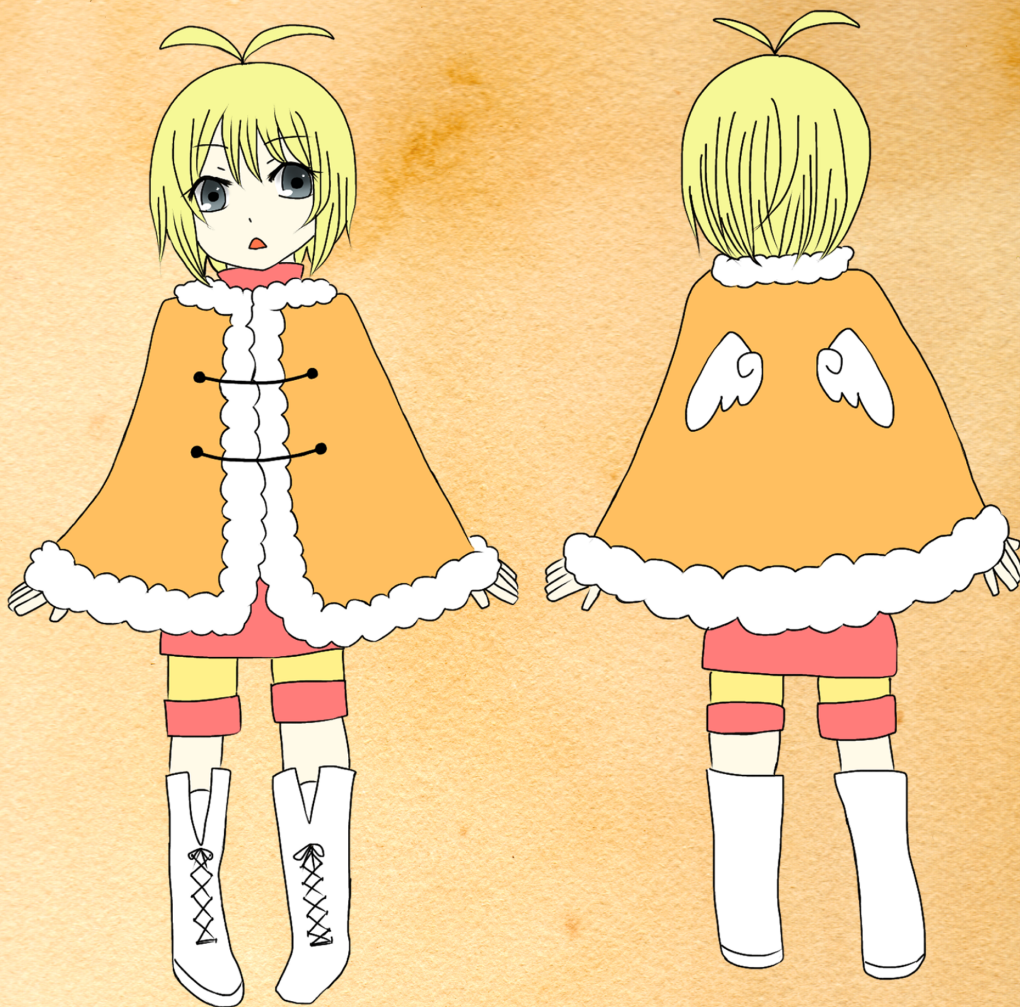


原型＝チルタリス♂
年齢＝25
身長＝176cm
一人称＝俺
二人称＝貴方

普段は何があっても動じず、「どうにかなるさ」とか「成せばなるよ」という性格。ただし理性的な性格の為、自分が被害を被りそうな事は出来るだけ選ばないような無難な生き方を好む。シェラタンの兄だが、過保護な一族の様子にうんざりしている為、弟とは距離を置いている。だが、実際弟が駆け寄って来ると、なんだかんだでつい構ってしまう程度には人がいい。ウェルテクス家の時期当主の地位は確定している為、未来軸では弟と共に一族を支えるようになる。

「動じる事は無いよ。安心したまえ、諸君。」
「はいはい。そろそろお昼寝の時間だよ。」





シェラタン Sheratan



原型＝★チルト♂
年齢＝12歳
身長＝151cm
一人称＝僕
二人称＝君

とてもワガママな性格。小さい頃から体が弱く、甘やかされて育った為
人が何かをしてくれるのは当然の、愛玩道具のような存在。
同時に色違いのため祭り上げられ、一族の繁栄の象徴とされた。
そのカゴ(籠・加護)が無くなる事がない限り、
偉そうな性格は変わらないと思われていたが、兄が一線を退いて接してる為、
なんとか少しずつ改正しつつある模様。
たまに子供らしく残酷な事を言って
兄に怒られたりしては母に言いつけにいくが、
両親とシェラタンの3人はなんだかんだで
正論で叩き切るアランに敵わない為、いつも泣きねいる。

「へへーん！当然だよ。なんたって
僕の一族は立派だからね。」
「人参嫌い。ピーマンもトマトも嫌い。
…分かってるよ。食べれば良いんでしょ、
食べれば！お兄様なんて大嫌い！！」

